

No. of measurement
'80 Feb. - '81 Jan. 48718
No. of patients 6 (1/8000)

TSH↑ T ₄ ↓ 3	3 1 1 1	Hypothyroidism Goitrous Ectopic
TSH↑ T ₄ → 5	3 1 2 1 1	Hypothyroidism Ectopic Transient Normal
TSH→ T ₄ ↓ 41	19 3 3 16	TBG deficiency (1/2600) Prematurity Normal

慢性甲状腺機能障害の疫学と 予後に関する研究報告書

名城病院小児科 川村正彦

I. 中部地区におけるクレチン症スクリーニングの結果

中部地区（愛知県，名古屋市，静岡県，岐阜県，三重県）でのスクリーニングは1980年は113,637例の検査で11名の発見で発見率は10,330に1例であるが詳細に見ると，名古屋市2例/6,722例，発見率1/3,361，愛知県7/42,250例，発見率1/6,035，静岡県2/45,347例，発見率1/22,673，岐阜県0/19,318例と3,300例に1例の発見から22,000例に1例までかなりの差がある。

II. 未熟児のクレチン症について

未熟児にクレチン症があるのか否かについては定説がなかった。これは未熟児ではしばしばT₄低

値を示すこと、TSH高値も稀でないことから確実なスクリーニング、確定診断に困難があったからである。今回、通常のクレチン症マス・スクリーニングの網にかからなかったクレチン症を経験した。

この症例は愛知県安城更生病院で960gで出生した極小未熟児である。生後29日目普通採血による血清TSH 22.2 μ U/ml, 31日目ガスリー検査のため血液濾紙作成, これによる全血TSH正常(同一検体を再検しTSH 17.0, 10.0, T₄ 1.4 μ g/dl)この日からわずか8日後の生後39日目血清TSH 320 μ U/ml以上, T₄低値で測定でまずの結果であった。甲状腺剤による治療を開始してTSH, T₄などすべて正常値を示す生後108日目になっても大腿骨遠位骨核(FDC)は全く出現していない。

本症はたまたま血清TSH, T₄検査をマス・スクリーニングとは別に実施している施設であったので発見出来た例であり、通常のクレチン症のスクリーニングでは発見もれとなるし、TSH上昇速度をみても、生後31日目まではさしたる上昇なく、生後39日目、すなわちこの間の8日間に急上昇が起きたと考えられる。未熟児にもクレチン症が存在することを考えさせられるデータであると共に、未熟児のTSHスクリーニングの実施時期について十分な検討の必要を示すものである。

なお愛知県で1980年度中にもう1例の未熟児高TSHがあった。名鉄病院で1770gで出生、ガスリー検査のときの血液濾紙からの全血TSH 160 μ U/ml, T₄ 6.4 μ g/ml, 確認のため採血して行った血清TSH 231 μ U/ml, T₄ 6.4 μ g/ml, PBI 7.2であった。なおX-pによるFDCは1 \times 2mmであった。

クレチン症マス・スクリーニングの基礎的研究

大阪市立小児保健センター 大浦敏明
鶴原常雄
長谷豊
大笹幸伸
近藤琢磨
岡野善行

1. 固相法TSH-RIAによるクレチン症マス・スクリーニングの基礎的検討

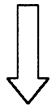
従来の2抗体法とは異なる固相法TSH-RIAによるクレチン症マス・スクリーニングの基礎的検討を行った。キットとしては「コーニング」新生児用TSH-RIAキットを用いた。

その結果この方法は次のような利点を有した。すなわち測定所要時間の短縮, 方法の簡便さ, 測定



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 中部地区におけるクレチン症スクリーニングの結果

中部地区(愛知県,名古屋市,静岡県,岐阜県,三重県)でのスクリーニングは 1980 年は 113,637 例の検査で 11 名の発見で発見率は 10,330 に 1 例であるが詳細に見ると,名古屋市 2 例/6,722 例,発見率 1/3,361,愛知県 7/42,250 例,発見率 1/6,035,静岡県 2/45,347 例,発見率 1/22,673,岐阜県 0/19,318 例と 3,300 例に 1 例の発見から 22,000 例に 1 例までかなりの差がある。